

# 村落における神社拝殿の空間的意義 — 湖北平野旧高月町域における採集調査を通して —

中谷研究室 千年村研究ゼミ  
齋藤湧一郎

## 目次構成

〈序論〉

0-1 研究背景

0-2 研究目的

0-3 研究方法

0-4 既往研究と本研究の位置づけ

0-5 対象地域について

〈本論〉

**第1章 旧高月町域における神社拝殿の採集・分析**

1-1 はじめに

1-2 調査対象拝殿と分析方法

1-3 分析の諸要素と類型化

①本殿と拝殿の関係〈独立型と連結型〉

②柱間の状態〈開放系と閉鎖系〉

③床と縁〈床式と土間式、縁ありと縁なし〉

④柱の断面形状〈角柱と円柱〉

⑤屋根形態と向き〈妻入りと平入り、切妻と入母屋〉

⑥平面形式と規模

⑦平面寸法による分析

1-4 拝殿の類型化による歴史的展開過程の考察

1-5 小結：高月町域における拝殿の特徴と傾向

**第2章 拝殿の起源と地理的傾向**

2-1 はじめに

2-2 拝殿の起源と成立

2-3 舞殿および舞拝殿の特徴

2-4 舞拝殿の地域的傾向

2-5 小結：高月町域の拝殿の建築史的な位置づけと地域的特異性

**第3章 村落共同体における拝殿空間**

3-1 はじめに

3-2 集落における神社立地と建物配置

3-3 神社の内部空間

3-4 祭礼における拝殿空間の使われ方

3-5 拝殿空間の維持管理の方法

3-6 小結：村落共同体における拝殿空間の存在意義

〈結論〉

**第4章 考察**

4-1 空間について：拝殿の空間的特質

4-2 歴史について：持続要因としての拝殿空間

**第5章 結論**

参考文献・図版出典

〈巻末資料〉

拝殿カード

拝殿チェックリスト

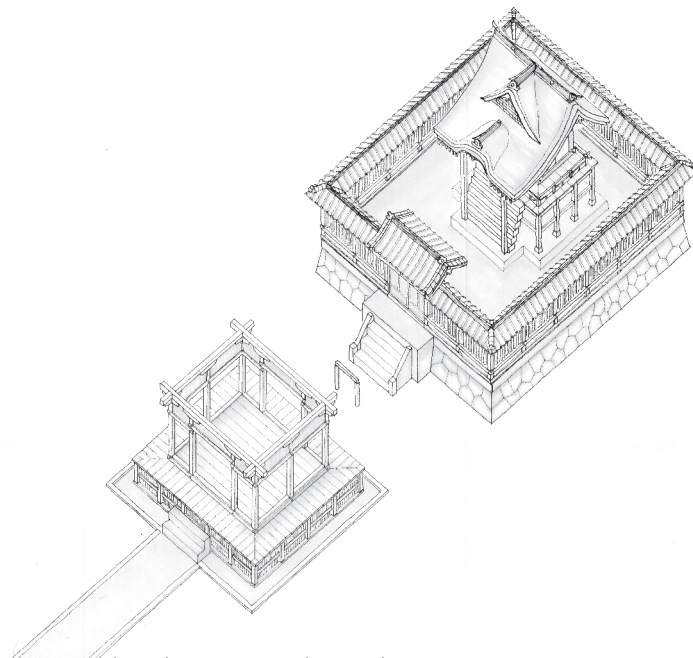
## 序論

### 01 はじめに

地域の生存単位としての大字を想定する。大字ごとにひとつの神社が立地している場合が多く、神社の存在が集落の存立に大きな役割を果たしていることが考えられる。なかでも湖北地域の集落においては、**本殿から独立し柱間が四方に開け放たれた拝殿**がある。これらの拝殿空間は村落共同体のなかでどのような役割を果たすものだろうか。

### 02 研究目的

集落のなかで神社拝殿がもつ空間的な特徴を把握し、それら空間の成立過程や歴史的意義を明らかにすること。さらに地域の持続要因としての神社拝殿の可能性を探ること。



〈図1〉白山神社（保延寺）アクソメスケッチ

## 03 研究方法

### 1章：現地調査による分析

旧高月町域の全ての拝殿について採集し、類型化によって建築的特徴の傾向を明らかにする。

### 2章：建築史的視点

拝殿に関する建築史領域の研究成果から、対象地域拝殿の建築の歴史的または地域的特異性を明らかにする。

### 3章：地域史的・民俗的視点

拝殿空間の祭礼時における使い方や、地域での維持管理の方法などを明らかにする。

## 04 既往研究

- ・井上充夫「拝殿の起原について」(日本建築学会論文報告集、昭和34年6月)
- ・井上充夫『日本建築の空間』(鹿島出版会、昭和44年)
- 空間的な興味から文献史料により拝殿の起源を明らかにしたもの。
- ・黒田龍二「滋賀県湖北地方のオコナイとその建築：祭礼建築論の試み」(国立歴史民俗博物館研究報告 98巻、2003-03-31)
- 湖北地方において祭礼が行われる建築空間を分析したもの。
- ・大岸文夫、佐藤勝行「滋賀県高島郡の神社境内における演能場について：その1. 演能場の立地状況と舞台構成について」(1996年度日本建築学会関東支部研究報告集)
- ・佐藤勝行、大岸文夫「滋賀県高島郡の神社境内における演能場について：その2. 平面および屋根の形態について」(1996年度日本建築学会関東支部研究報告集)
- ・多米淑人、吉田純一「福井県美浜町の神社建築の拝殿について」(日本建築学会大会学術講演梗概集、2005年)
- これらは本研究の対象地域に近い小地域において、拝殿を網羅的に調査しその地域の傾向を明らかにしているものである。本研究第2章で対象地域の地理的特異性を明瞭にするための比較対象として有効である。

## 05 本研究の位置づけ

拝殿建築は地域や神社によって様々な役割や形態を持つため建築史における総合的な研究はあまり行われていない。また集落レベルでの文化財指定のない神社拝殿の研究に関してもあまり行われていない。本研究は現地調査により地域内での2020年現在での全体的な傾向について建築的特徴の微妙な差異を集積し比較を行う形態分析によって明らかにすることである。

## 本論

### 第1章 旧高月町域における神社拝殿の採集・分析

#### 1-1 対象とする神社

湖北平野の旧高月町域の

31大字を対象地域とする。

対象地域のうち『滋賀県神社誌』には36の神社掲載のあり、そのうち27の神社が拝殿を持つことが記されている(表1)。そのうち現地調査によって実見が可能だった26件を分析対象とする。拝殿を持つ神社は大字に重複することなく一対一で存在するため、集落の特徴として捉えることができる。

大字No.	大字	神社	拝殿の建築	拝殿No.
1	井口	日吉神社	入母屋造 開口二間五尺 奥行二間二尺	1
2	神寺	白山神社	入母屋造 開口二間二尺 奥行二間	2
3	淵戸	日吉神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	3
4	菟山	白山神社	拝殿なし	
5	保延寺	白山神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	5
6	雨森	天川命神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	6
7	高野	高野神社	入母屋造 開口二間 奥行一間四尺	7
8	柏原	八幡神社	入母屋造 開口一間四尺 奥行五尺六寸	8
		伊香具神社	拝殿なし	
9	渡岸寺	天神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	9
10	瀧川	日吉神社	入母屋造 開口二間二尺 奥行二間二尺	10
		非宮神社	拝殿なし	
11	馬上市	走馬神社	入母屋造 開口三間 奥行二間三尺	11
12	森本	森本神社	入母屋造 開口二間 奥行二間二尺	12
13	高方	神楽神社	入母屋造 開口二間四尺 奥行二間一尺	13
14	宇根	春日神社	入母屋造 開口二間三尺 奥行二間五尺	14
15	東阿閉	乃伎多神社	入母屋造 開口二間三尺 奥行二間一尺	15
16	東野野	鹿比多神社	拝殿なし	
17	柳野中	大表神社	切妻造 開口二間三尺 奥行一間五尺	17
18	西原野	八幡神社	入母屋造 開口三間三尺 奥行一間五尺	18
19	重形	大谷神社	拝殿なし	
20	松尾	天森神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	20
21	西野	日吉神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	21
22	柳野	天八宮神社	入母屋造 開口二間三尺 奥行二間三尺	22
23	片山	片山神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	23
24	西阿閉	意波神社	拝殿なし	
		甘藤神社	拝殿なし	
25	東高田	櫻神社	切妻造 開口二間 奥行一間三尺	25
26	希庵	八幡神社	入母屋造 開口二間二尺 奥行一間四尺	26
27	高川	日吉神社	入母屋造 開口二間三尺 奥行二間三尺	27
28	橋山	橋山神社	切妻造 開口二間三尺 奥行二間三尺	28
29	東物部	乃伎多神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	29
30	西物部	八幡神社	入母屋造 開口二間 奥行一間三尺	30
31	磯野	赤見神社	入母屋造 開口二間 奥行二間	31

(表1) 高月町神社一覧(『滋賀県神社誌』より作成)

#### 1-2 分析項目

- ・本殿と拝殿との関係
- ・柱間の状態(建具の有無、敷居・鴨居の有無)
- ・床の形式、縁の有無
- ・柱の断面形状
- ・屋根の形式と向き
- ・平面形式(柱割りと規模)
- ・平面寸法(採寸が可能であったものについて)

#### 1-3 分析の諸要素と類型化

##### ①本殿と拝殿の関係〈独立型と結合型〉(17:9)

本殿と拝殿の関係に着目すると〈独立型〉と〈連結型〉に分類できる。独立型においては祭礼時に本殿と拝殿の間に仮設的な通路が設けられることが多い。白山神社(保延寺)では仮設通路のための掘立ての橋脚が設けられている。(図2)

この通路が常設化したものが連結型である。天川命神社(雨森)は床板が本殿と拝殿それぞれの石段の間に架けられ、鉄骨造による屋根がつくられている。また八幡神社(柏原)のように拝殿と一体的に計画された通路も見られるようになる。

##### ②柱間の状態〈開放系と閉鎖系〉(7:19)

柱間の状態について〈開放系〉と〈閉鎖系〉に分類できる。〈開放系〉は柱間が開け放たれているもので、〈閉鎖系〉は板戸など建具が設けられているものである。〈閉鎖系〉は祭礼時に開け放たれる。

##### ③縁〈縁ありと縁なし〉(21:5)

〈床式〉と〈土間式〉に分けられるが〈土間式〉のものは1件のみで、ほとんどが〈床式〉である。〈床式〉のうち縁を持つ〈縁あり〉と縁を持たない〈縁なし〉に分類できる。縁を覆う木製の板が設けられている場合がある(図6)。これは雪が積もるのを防ぐためのものであり〈閉鎖系〉にのみ見られる。このように縁は特に維持管理が必要とされる部分である。

##### ④柱の断面形状〈角柱と円柱〉(23:3)

柱の断面形状に着目すると〈角柱〉と〈円柱〉に分類できる。対象地域では〈角柱〉が一般的である。〈角柱〉は建具との相性がよく開放系から閉鎖系に移行しやすいと言える。一方で〈円形〉のものには仏堂風の形式をもつものを含み、本研究ではこれらを〈特殊系〉と位置づける。

##### ⑤屋根の向きと形態〈妻入りと平入り(3:23)、切妻と入母屋(6:20)〉

屋根の向きについては〈妻入り〉〈平入り〉のものが、形態については〈切妻〉と〈入母屋〉がある。対象地域については〈平入り〉が圧倒的に多く分布している。

##### ⑥平面形式と規模

26件の平面を一覧したのが表2である。柱割りにおいては正面三間・奥行二間のものが最も多く、〈特殊系〉を除けば奥行き三間のものは日吉神社(井口)の1件のみである。また正面三間のものはほとんどの場合、中央一間の柱間が広く設けられる。

##### ⑦平面寸法による分析

平面規模とプロポーシヨンの分布を示したのが(図8)のグラフである。平面形が正方形から横長にかけて分布していることがわかる。また平面規模と縁の有無に着目すると〈縁なし〉が比較的に大規模な傾向にあることがわかる。

#### 1-4 類型化による形態変化の傾向

〈独立型⇒連結型〉
祭礼時の仮設的な通路→通路の常設的増築へ
〈開放系⇒閉鎖系〉
開放系は何もない舞台的空間、閉鎖系は内部にものが置かれるようになり、祭礼時には開放される。
〈縁あり⇒縁なし〉
縁の維持は大変(縁カバーの設置)。縁なしは比較的に平面規模が大きい。



(図2) 掘立の橋脚\_白山神社(保延寺)\_左  
(図3) 増築された通路\_八幡神社(柏原)\_右

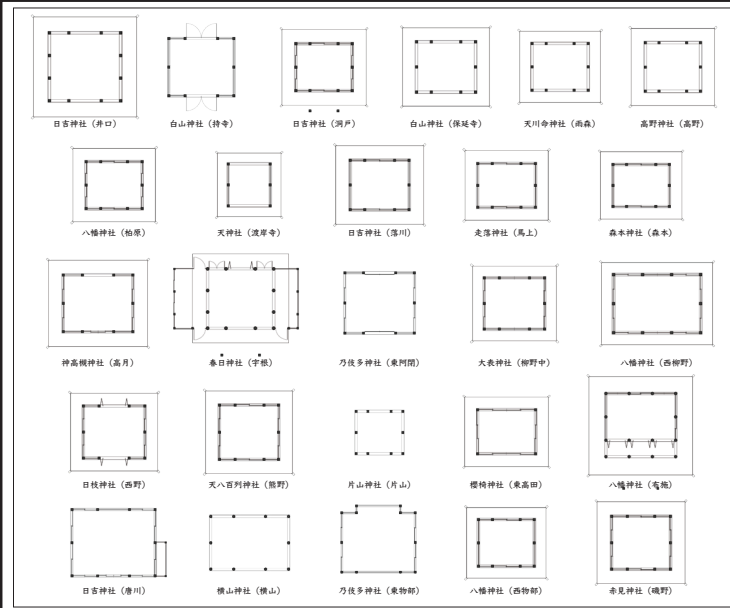


(図4) 開放系の拝殿\_天川命神社(雨森)\_左  
(図5) 閉鎖系(サッシ) 拝殿\_八幡神社(西物部)\_右

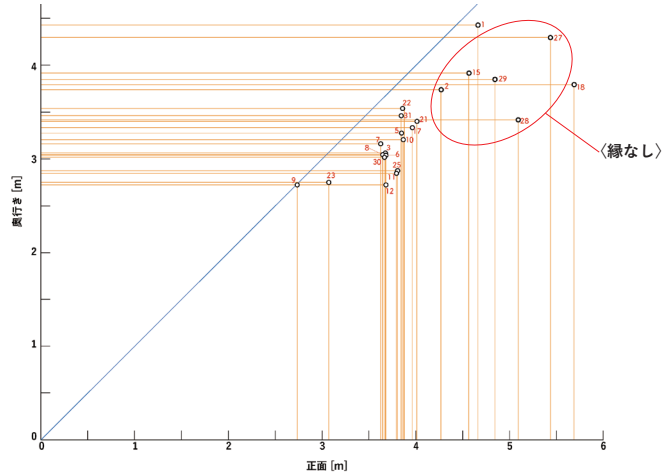


(図6) 縁の覆い\_森本神社(森本)\_左  
(図7) 縁を持たない拝殿\_乃伎多神社(東物部)\_右





(表2) 採集した26件の平面図一覧



(図8) 平面規模とプロポーションの分布と緑の有無

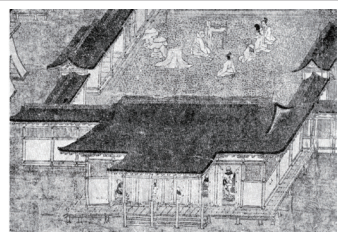
## 第2章 拝殿の起源と地理的傾向

### 2-1 拝殿の起源と種類

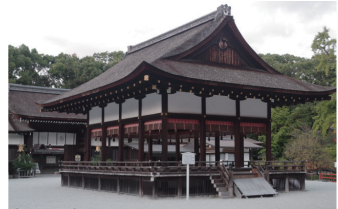
神の住居である本殿に対し礼拝をおこなう空間として「人のための場所」が要求され始め、拝殿が成立した。井上充夫は拝殿の起源として3つの流れを挙げている\*1。

- ・礼殿 (→横拝殿) (図9)  
寺院の「礼殿」の影響を受けて、神社でも礼拝空間が要求された。横長で平入のものが多く現在では「横拝殿」と呼ばれる。
- ・舞殿 (→舞拝殿) (図10)  
神社での舞を奉納するための「舞殿」がやがて礼拝空間として使われるようになり「拝殿」と呼ばれるようになった。
- ・中門と翼廊 (→割拝殿) (図11)

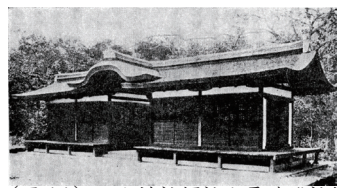
中門の形式に起源を持つ拝殿が「割拝殿」と呼ばれるものであり、左右に床張りの部分があり中央に馬道とよばれる土間の通路があるものを指す。



(図9) 熊野本宮 礼殿



(図10) 下鴨神社 舞殿



(図11) 石上神社 榊社出雲建雄社 拝殿

### 2-2 「舞拝殿」の建築的特徴

#### ①舞拝殿の建築的特徴

舞拝殿の一般的な特徴として井上充夫は以下の特徴を挙げている\*2。

- ・本殿から独立している
- ・正方形に近い平面をもつ
- ・柱間が四方に吹き放たれる
- ・屋根は妻入り・平入り両方あるが、妻入りの方が多い

#### ②日吉大社拝殿

日吉大社は舞拝殿の特徴を持つ拝殿が見られる。(図12)は江戸初期に描かれたもので西本宮(奥)と宇佐宮(手前)が描かれる\*3。〈平入り〉の本殿に対して〈妻入り〉の拝殿が構えるという構成は舞拝殿の空間的特性をよく現わしている。

### 2-3 舞拝殿の地域的傾向

#### ①滋賀県の拝殿建築の傾向

滋賀県は「舞拝殿」の特徴をもつ拝殿が多く分布していること、またその多くが「妻入り」であることが指摘されている。

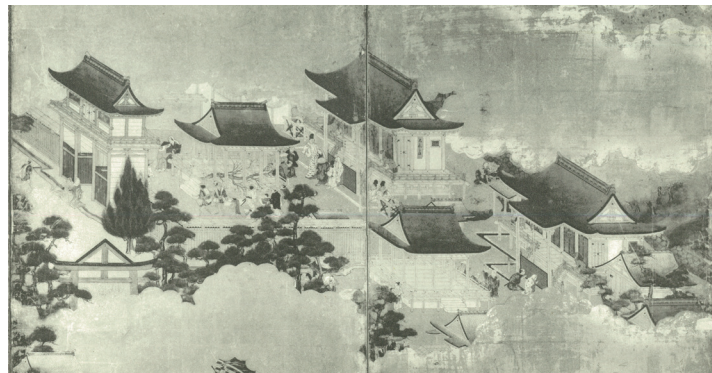
「県下の神社にはほとんどの場合拝殿をもっているとみてよい。しかも、三間四方の規模をもち四周開放形で、屋根は入母屋造妻入りとするのが一般的である。」\*4

#### ②他の地域の拝殿の傾向

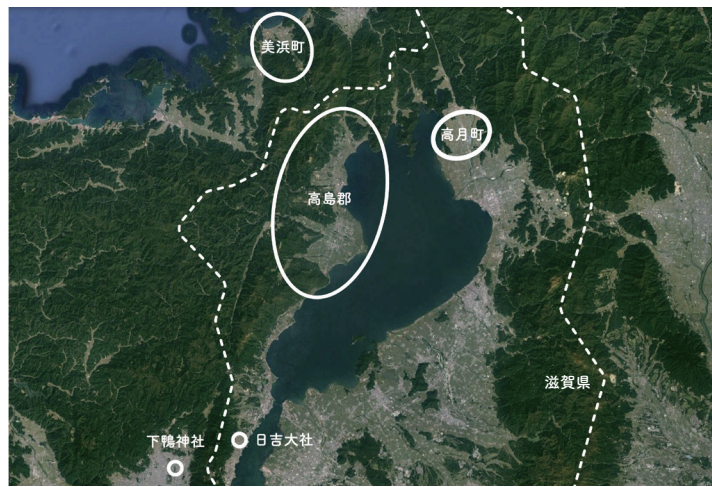
- ・滋賀県高島郡：舞拝殿が濃密に分布。高島郡ではこれらは演能場としても使われていた。そのほとんどが〈妻入り〉で縦長から正方形の平面をもつ。\*5
- ・福井県美浜町：割拝殿と舞拝殿の数が拮抗し、そのうち舞拝殿は〈平入り〉〈妻入り〉がおおよそ半数ずつ。\*6

### 2-4 高月町の拝殿の建築史的 위치づけ

以上から高月町の拝殿は、「本殿から独立し、正方形に近い平面をもち、四方が開放される」という点において舞拝殿の系統にあると言える。しかし一方で〈平入り〉が濃密に分布することは地域的な傾向として指摘できる。



(図12) 江戸初期の日吉大社(西本宮(奥)と宇佐宮(手前))



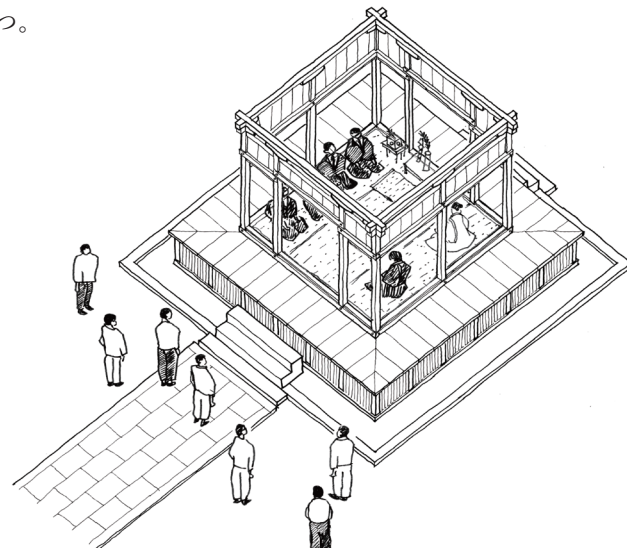
(図13) 高月町と比較対象の地域の地理的關係

## 第3章 村落共同体における拝殿空間

第3章では村落共同体において拝殿空間が果たす役割と、その維持管理の仕組みを明らかにした。

### 3-1 祭礼時における拝殿の使われ方

湖北には集落それぞれで行われ、村落にとって最も重要な行事ともいえる「オコナイ」があり、そのなかで拝殿は重要な役割を果たす。拝殿内部に人が上がり、祭礼空間として使われる様子が確認できる。「オコナイ」は集落を構成する住人らが自ら運営し参加する。つまりは各集落の拝殿は村落共同体の空間としての性格を持つ。



(図14) 「オコナイ」における拝殿空間のイメージ

### 3-2 拝殿建築の維持管理の方法

拝殿の維持管理の仕組みとして、積雪が多い湖北地方では建物を雪から守るための「雪囲い」がある。周囲に鉄の枠組みが設けられ、雪囲いとして布製の幕が張られる(図15)。日吉神社(井口)は常設の鉄骨の枠組みが設けられず、鉄骨の枠組みそのものも雪囲いの際に設けられる。



(図15) 雪囲いの鉄骨枠組み—白山神社(保延寺)

雨森において雪囲いを行うのは、集落を東西南北4つに分けたそのうちの1組(座)が一年ずつ順番(担当する組を年番という)で行うものである。座はオコナイの組織単位である。雨森のオコナイの規定である「雨森区御神事規定」(昭和39年)の中の「年番座年間行事」に定められている\*7。

- 三月下旬 天命川神社・観音堂・芳洲神社の雪囲いの取り外し
- 四月十三日 神社清掃および幟立て
- 八月十四日 盆参拝者受け
- 八月 日 高月町観音祭が実行される年度には、観音堂参拝者受け
- 九月十三日 午前八時より灯明準備
- 九月十四日 灯明台、「カワラケ」後始末
- 十月十七日 総御神酒(事情により実施日を変更する)
- 十一月中旬 天川命神社・観音堂・芳洲神社の雪囲い取り付け
- 一月一日 新年参拝者年頭受け
- 二月中旬 御神事当日

規定から3月下旬と11月中旬に雪囲いが年番によって行われることがわかる。つまり雨森では、雪囲いの取り外しと取り付けは、集落を4つに分けた「座」が1年ごとに入れ替わりで担当する「年番」によって担われているのである。

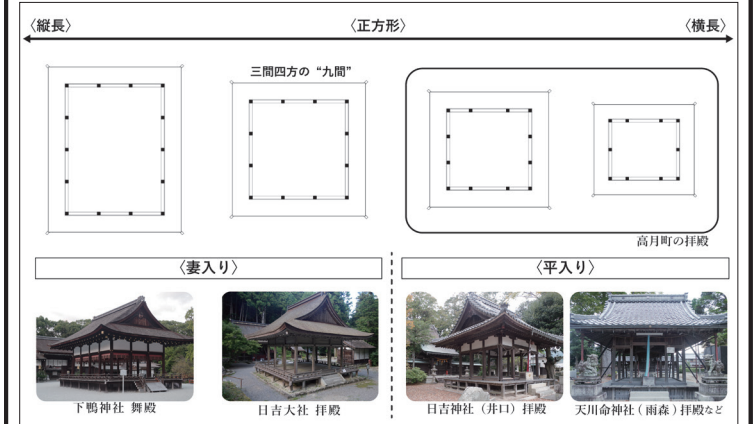
このように地域における拝殿空間の重要性を読み解くことができると同時に、それを維持管理する村落共同体の組織の存在を認めることができる。

## 第4章 考察

2章では高月町の拝殿が舞拝殿の系統にありながら〈平入り〉であることが独特な地域的な傾向であることを指摘した。「観音の里」高月町ではそれぞれの集落で古代以来の仏像を守り伝えており、それらを村の「氏仏」として「氏神」と同様に守っている。神社境内に仏堂が置かれる場合も多く(図16)、どちらもセットで守るという強い意識がある。また仏堂風の形式をもつ拝殿あるように、堂も社も建築的に区別しないという独特の形態感覚がこの地域にはある。そのため拝殿もこの形態感覚によって〈平入り〉となったことが考察できる。



(図16) 白山神社(保延寺)の境内—仏堂(左)と神社拝殿(右)



(表3) 舞殿および舞拝殿の平面形の比較と屋根の向き

## 第5章 結論

高月町域において神社拝殿の建築形態には地域的傾向が色濃く反映されている。それは拝殿が村落共同体それぞれによって形づくられ維持管理される〈共同体の空間〉であるからであり、村落共同体の持続に欠かせないものと言える。

### 注釈

- \*1、\*2 井上充夫『日本建築の空間』(鹿島出版会、1969年)による
- \*3 『神社古図集』の解説による。
- \*4 滋賀県教育委員会文化部文化財保護課「滋賀県の近世社寺建築：近世社寺建築緊急調査報告書」(1986.3)の概説部分より引用
- \*5 大岸文夫、佐藤勝行「滋賀県高島郡の神社境内における演能場について：その1. 演能場の立地状況と舞台構成について」(1996年度日本建築学会関東支部研究報告集)
- \*6 多米淑人、吉田純一「福井県美浜町の神社建築の拝殿について」(日本建築学会大会学術講演梗概集、2005年)
- \*7 雨森まちづくり委員会『字誌「ふるさと雨森」』(平成12年発行)より

### 参考文献

- ・高月町史編纂委員会『高月町史』(平成18年12月発行)
- ・高月町史編纂委員会『高月町内「おこない」写真集』(平成12年11月発行)
- ・高月町史編纂委員会『高月町 町内の「おこない」』(平成12年10月発行)
- ・長浜市長浜城歴史博物館(編)『びわ湖・長浜のホトケたち』(サンライズ出版、2014)
- ・神代雄一郎『間(ま)・日本建築の意匠』(鹿島出版会、1999年)

### 図版出典

- (図1,2,3,4,5,6,7,10,15) 筆者撮影
- (図8) 筆者作成
- (図9,11) 井上充夫『日本建築の空間』(鹿島出版会、1969年)より
- (図12) 『神社古図集』(日本電報通信社、昭和17年)より
- (図13) GoogleEarthをもとに筆者作成
- (図14) 筆者作図
- (表1,2,3) 筆者作成